

普及だより



和歌山県青年農業者会議プロジェクト発表会にて和海地方4HCの活動が最優秀賞を受賞しました。

量的金融緩和政策等により一旦上昇していた日本の株価も中国経済の減速、原油価格の下落等に伴って年明けから下落を続け、日銀は追加緩和策として初のマイナス金利政策を導入しましたが、世界経済の先行き不安等により思惑とは逆に円高、株安の方向に動くなど、日本経済はグローバル経済の中で翻弄されています。

金融緩和政策により、大企業の収益性は向上したものの、個人消費は伸びず、国内生産物の需要の増大にはつなげていない状況です。

一方、TPPの大筋合意により、国は平成27年度補正予算でTPP関連対策として、3,122億円の予算を組みましたが、今後の関税の削減、撤廃に対し、産地ごとの具体的な対策や積極的な輸出の推進等新たな取り組みが必要となっています。

また、生産者の高齢化、担い手不足と長年言われてきたわけですが、県内の農業生産構造をみますと、農業者の40%が70才を超え、農地の維持はもとより次世代の担い手、耕作者の確保が急務になってきております。

今こそ地域をどうするのか、農業経営をどうしていくのか、産地振興をどう進めていくのか、現状を十分に分析し、将来理想とする具体的な目標を定め、これに向かって必要な取り組みを着実に進めていくことが大切であると考えます。

機構改革により、平成28年度から振興局に農林水産振興部が新設され、農業振興課はこれまでの業務に水産振興や食品流通に係る業務を加え、農業水産振興課としてスタートすることとなりました。

普及グループは農業水産振興課の1グループとして従来どおり活動いたします。

少人数ではありますが、地域農業の振興のため、生産者の方々との直接の接点を活かして幅広い角度から対応して参りたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

新しょうがの安定生産に向けた取組

和歌山市の新しょうがは、主にハウス栽培されており、地域を代表する品目となっています。

しかし、新しょうが生産に使う種しょうがについては、ほぼ全量を高知、熊本、長崎など県外から購入しており、これらの産地の気象災害や天候などによっては、需要が逼迫し、種しょうがの価格高騰につながり、経営を圧迫することになります。

今後も持続的に新しょうがの生産を続けていくためには、優良な種しょうがの安定確保が必要であることから、海草振興局では、地域内での種しょうが自給も視野に入れて、まずは囲いしょうがの生産をとおして、最終的に種しょうが生産につなげることを目標に和歌山市、JAわかやま、JA和歌山県農、農業試験場などと連携しながら取り組みを始めています。

また、しょうが栽培のうえで、大きな問題となるショウガ根茎腐敗病については、生産ほ場へのショウガ根茎腐敗病菌の持ち込み防止として種しょうがの温湯消毒技術や、生育期間中の薬剤防除、局所的な熱水・熱水消毒法などの検討、普及を進めています。



囲いしょうが、種しょうが生産に向けた現地検討



種しょうがの温湯消毒

果樹重要病害のまん延防止対策の確立

海南市は、藤白地区や旧下津町を中心に古くからキウイフルーツ栽培が盛んで、近年、販売価格が安定していることから栽培面積が増加している数少ない品目の一つです。

平成26年4月、それまで日本国内に侵入していなかったキウイフルーツかいよう病Psa3系統が紀北地方を中心に確認され、まん延防止に向けた様々な対策を講じてきたところです。

しかし、未だ確立された防除手法はないことや、キウイフルーツ栽培を行う上で、重要な受粉作業においても、輸入花粉を用いた湿式受粉法が広く普及しているなどから、病原の侵入リスクが高い状況にあります。

海草振興局では、平成27年度より、JAながみね及びかき・もも研究所と協力して、キウイフルーツかいよう病のまん延防止対策の確立に向けた活動を展開しています。発病園からのまん延防止対策の確立・普及及び病原の侵入リスクの軽減に向けた自家採取花粉の確保を推進することにより、生産者の不安を払拭し、産地の維持・拡大につなげていきます。



罹病し、枯死した新梢

和歌山市は、紀の川市に次ぐ県内第2位のイチジク産地ですが、近年、重要病害であるイチジク株枯病がまん延しており、その対策に苦慮しております。株枯病によって枯死した樹を植え替えても成木になる前に枯死してしまうので、一度株枯病が発症すると安定的な生産が難しくなってしまうのが現状です。

海草振興局では平成27年度より、JAわかやま、かき・もも研究所と協力してイチジク株枯病防除対策の確立に向けて活動しています。本年度は、和歌山市山東地区の全イチジク園における株枯病発生状況調査、イチジク抵抗性台木「キバル」の生育調査、土壌改良試験などに取り組みました。化学的な防除に頼らない総合的な防除方法の確立、普及を行います。



発病株抜根後の土壌改良試験

鳥獣害対策の取組

平成27年度は、昨年度に引き続き海南市笠畑地区に設置した大型捕獲檻で一度に17頭のイノシシを捕獲するなど効果が見られています！引き続き現地実証を続けていきたいと考えています。また、イノシシの捕獲効率向上のため、数種類のエサを赤外線カメラで撮影し、イノシシがどのエサをよく好むかを調査しました。結果、米ぬかや小米が有力という結果が得られました。

ヤギを使った耕作放棄地管理では約1ヶ月間で18aの草を食べ尽くすという活躍を見せてくれました。今後に期待！



大型捕獲檻で捕獲されたイノシシ

受賞おめでとうございます！平成27年度は次の方が受賞されました。

【和歌山県農林水産業賞】

農林水産業の振興発展並びに農山漁村の活性化に貢献し、業績が特に優れ、ほかの模範となるべき個人及び団体の功績を表すものです。



辻 拓男氏(和歌山市)



川端 久晴氏(和歌山市)



橋爪 道夫氏(海南市)

【緑白綬有功章】

公益社団法人 大日本農会より、農業改良の奨励、実行に顕著な功績をあげ、地域農業の発展に貢献された方に対し、表されるものです。



山口 善文氏(和歌山市)



表彰式にて

農作業の安全に努めましょう！

多くの農業生産現場では農業機械が利用され、農薬が使用されますが、危険も伴います。

例えば、農業機械では稲作に関連する機械利用での死亡事故が多く見られます。

ちょっとした「焦り」や「気のゆるみ」が事故につながります。機械を正しく理解し、整備点検、服装などに注意を払い、計画的なゆとりある作業を行って下さい。

一方、農薬使用にあたっては以下の点に注意して下さい。

- ①ラベルをチェック(記載内容を確認)、②保護具を着用(マスク、メガネ、手袋、防護具など)、③事前周知と飛散防止(近隣農家や周辺住民への周知、風向きなどに注意)④散布後は、散布記録を記帳⑤原則として単用散布(薬害の発生や人命にかかわることがある)⑥農薬は安全な場所に保管など安全に努めて下さい。



ラベルの記載例

使用基準(使用方法)はしっかり守る

農林水産省の登録番号があるのを確認しよう

▽△▽フロアブル

農林水産省登録番号第○○○号
有効成分: □□□□□...30%

| 作物名 | 適用農薬名 | 高濃度液 | 使用時期 | 総使用回数 | 使用方法 |
|-----|------------|-------|------|-------|------|
| 樹木類 | アメリカシロヒトリ | 2000倍 | 発生初期 | 4回 | 散布 |
| さくら | モンクローシヤチホコ | 2000倍 | 発生初期 | 4回 | 散布 |
| つばき | チャドクガ | 1500倍 | 発生初期 | 4回 | 散布 |

注意事項をきちんと読んで守ろう

| | | |
|-------|-------|----|
| イラガ類 | 1000倍 | 散布 |
| タマナヤガ | 1500倍 | 散布 |

注意事項

- ・散布調整液は、できるだけ速やかに...
- ・アルカリ性の強い石灰硫黄合剤、ボルドー

野菜花き産地総合支援事業(県単)の紹介

野菜花き産地の拡大を目的とし、各JAの産地構造計画に基づき、収益性向上に向けた施設等の整備に要する事業費の1/3以内を補助します。

平成26年度から始まった当事業を活用し、海草管内ではハウス内の循環送風機や多重カーテンの設置、野菜移植機や収穫機、袋詰機の導入、耐風性に優れたパイプハウス設置等が行われています。お問い合わせは、振興局または各JAをお願いします。

事業活用者の声(和歌山市野菜農家 大林幸造さん)

定年後、野菜(キャベツ・ブロッコリー)70aを栽培。

事業を活用し、移植機を導入!!

導入後には・・・

- ◇定植作業時間が大幅に短縮、腰が楽に!!
夫婦二人で1日/10a→約3時間/10aに。
立って作業できるので、疲労が大幅に軽減。
- ◇定植後の雑草管理作業も簡単に!!
等間隔で正確に植えられるため、管理機での雑草管理がしやすい。

結果

20~30aの規模
拡大を考えられて
います



果樹関係事業の紹介

温州みかんの貯蔵管理温湿度は3~5°C、80~85%とされていますが、近年の気候変動に伴い、2月以降、腐敗果が大幅に増加する15°Cを上回る日が少なくありません。

海南市下津町の貯蔵みかんを出荷する農家では、県の補助制度を利用して冷風発生装置を貯蔵庫に設置しています。

設置農家は、去る2月13日~14日にかけて南西よりの風が吹き、気温と湿度が上昇した際「みかんが結露せず、腐敗果の増加は見られなかった。」と言っています。

冷風貯蔵はみかんに優しい眠りを提供します。

県では、改植、基盤整備(フラット化や園内道設置など)をはじめ様々な補助(補助率は1/3~1/2)を行っています。詳しくは振興局やJAにお尋ねください。



防護柵設置で鳥獣害対策を!!

管内ではイノシシの被害が多く、まず対策の第一歩目は、防護柵の設置です。興味のある方は、補助事業の窓口となる各市町農業振興担当課までご相談下さい。

- 国の補助事業
受益者: 集落単位の団体
補助内容: 柵資材を現物供給
- 県の補助事業
受益者: 2戸以上の団体
補助内容: 資材費の2/3以内



国の事業を活用し、山林と果樹園の境界に柵(ワイヤーマッシュ)を設置した事例。広域に囲んだことで、地元の方から被害がなくなったと好評を頂いています。



* 電気柵を設置する場合は以下の点にご注意下さい。

- ①家庭用電源から直接、電気柵に電気を供給しない。
- ②漏電遮断機機の設置、電気柵用電源装置の使用、開閉器(スイッチ)の設置、危険表示

平成28年度人事異動による転出入についてお知らせします。

| 出 | | | 入 | | |
|--------|-------|--------------------|-----------------------|-------|----------|
| 旧職名 | 氏名 | 新職名 | 旧職名 | 氏名 | 新職名 |
| 農業振興課長 | 楠 茂樹 | 県農業試験場暖地園芸センター育種部長 | 県農業試験場暖地園芸センター育種部長 | 上山 茂文 | 農業水産振興課長 |
| 主任 | 岩橋 信博 | 伊都振興局農林水産振興部主任 | 県農業大学校准教授 | 神谷 桂 | 主任 |
| 主査 | 宮壽 剛 | 農林水産政策局食品流通課主任 | 農林水産政策局食品流通課主任 | 光定 伸晃 | 主任 |
| 副主査 | 大嶋 功資 | 農林水産政策局食品流通課副主査 | 農林水産政策局食品流通課主査(県観光連盟) | 井沼 秀計 | 主査 |
| 技師 | 廣田 彩花 | 農業生産局果樹園芸課技師 | 水産振興局水産振興課主査 | 橋本 和子 | 主査 |
| | | | 海草振興局地域振興部企画産業課主査 | 内海 遼一 | 主査 |
| | | | 海草振興局地域振興部企画産業課技師 | 武田 崇史 | 技師 |
| | | | 農業生産局経営支援課技師 | 中野 沙織 | 技師 |